

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
43	川崎市立 生田 中学校	中村 隆英

学校教育目標	今年度の重点目標
一人ひとりが自ら学び、思いやりの心と正しい判断力をもって行動できる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活力ある学校 ～生徒主体の活動～</li> <li>・高め合う学校 ～認め合い高め合う～</li> <li>・ともに生きる学校 ～仲間と・地域と～</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力の育成</li> <li>・生き生きとした活動の推進</li> <li>・学びの環境づくりと有効な活用</li> <li>・地域ぐるみの教育の推進</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学習指導	<総合的な学力の向上> ・主体的に学ぶ意欲を育む教材教具の工夫 ・言語活動を充実させ、表現力を育む指導	・基礎基本の定着、思考力・判断力・表現力を育む授業の工夫 ・伝え合う授業の実践と表現力の育成、校内授業研究会の実施 ●学習評価を生かした生徒の学ぶ意欲の向上への取組	○感染症等予防策を講じた上での深い学びに向かう授業の工夫 ○教科の枠を超えた授業研究会の実施 ○評価方法、指導の改善にかかわる職員研修の実施
2 支援教育	<一人ひとりを大切に支援教育体制の整備と充実> ・支援教育COを中心とした支援体制の確立 ・通級指導教室の運営・連携	・支援教育COを中心としたチームによる組織的支援 ・支援教育の共通理解と全教職員の連携 ●通級指導教室担当職員との交流・連携	○個別支援において、支援教育COを中心としたチームで、関係機関等と連携し、組織的に支援方法の検討と実践の充実を図る ○通級指導教室の機能を生かした支援の模索
3 特別活動	<認め合い高め合いともに成長できる関係づくり> ・リーダーの育成と生徒中心の行事運営の推進 ・学年、学級活動 委員会活動の活性化	・生徒会本部・各種委員会を中心とした生徒集会の実施 ・日常の学級、委員会活動の活性化 読書週間(年2回)の実施 ●生徒の主体性を生かした活動の推進	○生徒が主体的に創りあげる学校行事の設定とリーダー研修の実施 ○生徒が自ら課題を見つけ、その解決に向けた手段や方法を考える力の育成
4 生徒理解	<教育相談の充実> ・生徒の声を傾聴し心を理解する教育相談の推進 ・かわさき共生＊共育PGを活用した関係づくり	・年4回の相談週間を設定し、担任等による教育相談を実施 ・かわさき共生＊共育プログラムの活用と年2回の効果測定 ●日常的な教育相談を基盤とした、相談しやすい雰囲気づくり	○日常的に生徒の話を傾聴する機会を増やし、生徒と教職員との人間関係の構築と話しやすい雰囲気づくりの継続 ○教育相談事前アンケートの活用と教育相談研修の実施
5 人権尊重教育	<多様な考えを理解し、互いを認め合う豊かな心の育成> ・一人ひとりの違いが豊かさとして響き合う人間関係づくり ・いじめや暴力は許さない人権尊重教育の推進	・多様な考えを理解するための道徳、人権尊重教育の取組 ・生徒会活動によるいじめ防止標語の作成 ●いじめの未然防止、早期対応の継続	○道徳教育、人権尊重教育充実のための研修の実施 ○教師・生徒の人権意識向上のための活動推進 ○生徒理解・実態把握に努め、適切な具体的な支援の実施
6 健康・安全教育	<防災教育、いのちを大切に教育の推進> ・薬物乱用防止、生活習慣などについての啓発 ・防災教育の充実、防災力と防災意識の向上	・保健だより等による啓発活動およびコロナ予防対策の徹底 ・消防署と連携した避難訓練、薬物乱用防止教室の実施 ●熱中症予防対策、防災教育の継続	○健康・安全に関する意識を高めるための取り組みの継続 ○火災や自然災害時等の対応について、避難訓練等を活用しながらシミュレーションする
7 GIGAスクール構想	<GIGA端末の有効活用> ・ICT等の教材教具の管理と充実 ・「個別最適な学び」「協働的な学び」の推進	・活用事例を共有する等の校内研修の実施 ・授業、行事等でのGIGA端末を活用した取組 ●GIGA端末を活用した授業の充実	○情報モラルについて生徒への啓発指導の実施 ○GIGA端末を活用した教育活動の実践継続 ○ICT活用のスキル研修、図書館を活用した読書活動の推進
8 キャリア教育	<キャリア在り方生き方教育の推進> ・体験活動等を通したキャリア教育の推進 ・社会的自立に必要な能力や態度の育成	・キャリア在り方生き方教育の推進 ・2年生の職場体験学習を実施 ●社会的自立に必要な能力・態度を育成するための全体計画	○総合的な学習では防災教育を柱に、社会的自立に必要な能力(言語力、自己肯定感、他者意識、規範意識等)を育成する。 ○各教科、総合的な学習など3年間を見通した全体計画を見直す。
9 異校種連携・交流	<異校種間連携教育の強化・推進> ・授業や部活動の体験を通した交流 ・小中合同の職員研修	・小中交流会の実施(授業・部活動体験) ・小中合同の職員研修の実施 ●地域の各小学校との連絡調整	○小中交流会の継続的な実施と活動内容の見直し ○小中相互の授業参観、小中合同の職員研修の継続的な実施 ○小中教務主任、支援教育CO、養護教諭、生徒指導担当の連携
10 保護者・地域との連携	<地域から信頼される学校づくり> ・PTA、地域教育会議、生中会、同窓会との諸活動の連携 ・学校ホームページの定期的な更新、学校だよりの発行	・学校公開日(授業参観・学校行事参観)の実施 ・地域と連携した会議や活動 ●地域等との諸活動の実施方法、日程調整などの検討	○行事や授業等への学校協力者、保護者の参観実施 ○持続的な地域行事への参加 ○学校だよりの発行と学校ホームページの定期的な更新
11 働き方・仕事の進め方	<教職員の働き方・仕事の進め方の意識改革> ・ノー部活動デーの設定 ・チャレンジド・ワークスの導入	・月1回のノー部活動デーを実施 ・会議時間の短縮、C4thの活用、研修会の実施 ●事務作業の軽減を図るためワーカートの連携	○会議時間の短縮、ノー部活動デーの継続 ○教職員の意識改革をふまえた教育課程の見直し ○チャレンジド・ワークスの活用充実

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>学校教育推進会議の代表生徒による活動報告では、日頃の学習や部活動、行事等に一生懸命に取り組んだ様子を、クイズを取り入れながら発表する姿に感心するとともに、多くの生徒が充実した学校生活を送っていることを理解した。今年度の学校評価アンケートも概ね肯定的な回答が多く、今後も生徒・保護者が相談しやすい環境、関係づくりに努め、さらに安心感につながる活動を期待したい。授業参観から、GIGA端末やICTを利用した学習や、グループで活動する生徒の姿が見られ、落ち着いた学習が行われていると感じた。主体的に行事や部活動に参加することが、学習成果にもつながっていると思われる。職場体験や地域行事への参加、お礼状を書くなどの大人と関わりを持つ経験は、これから社会で活躍する生徒にも、成長のためにも貴重な機会である。来年度も、様々な行事や体験を通して生徒の成長する姿が見られることを期待したい。</p>	<p>『確かな学力の育成』については、支援教育を推進し基礎・基本の定着を図るとともに、伝え合う授業の実践を通して、思考力・判断力・表現力の育成に努めた。学習評価を日頃の学習の振り返りや次の目標に役立て、確かな学力の育成、学ぶ意欲の向上を図りたい。</p> <p>『生き生きとした活動の推進』については、今年度は行動制限も緩和され、行事を工夫・改善しながら概ね実施することができた。日頃から生徒が相談しやすい環境、雰囲気づくりをすすめ、さらに生徒が主体的に取り組める活動を工夫し増やしていきたい。</p> <p>『学びの環境づくりと有効な活用』については、GIGA端末を活用した授業改善に向けた取り組みは継続する必要がある。また、GIGA端末の活用に必要な力、読解力や想像力を育むきっかけづくりとして、読書週間を年2回設定した。</p> <p>『地域ぐるみの教育の推進』については、今年度は「地域の皆さんと語り合おうの会」や、福祉施設「コスモスの家」との共催行事等、地域の方々と活動を行うことができた。今後も、学校・学年だより、ホームページなどの情報発信、学校行事や公開授業など、保護者・地域の方が生徒の活動を参観したり、一緒に活動できる機会を大切にしていきたい。</p>